

平成26年度 第2回
越谷市広報広聴専門委員会議（施設見学）実施報告

（開催日時） 平成26年10月24日（金）、13：15～17：00

（出席委員） 田中委員長、飯田委員、瀬尾委員、川本委員、吉野委員、櫻井委員、
駒崎委員

※欠席委員：鈴木副委員長、白井委員、阿部委員

（事務局） 笹野広報広聴課長、小田副課長

（見学先） ★（株）大越忠製作所（五月人形・鎧カブト製造、神明町1-39-2）
★河原桐箱製作所（平方126-1）

（目的） 市内伝統工芸事業所の見学を通じて、市の伝統工芸に対する理解を深め、
今後の広報広聴専門委員の職務に役立てる。

なお、見学先は、市政移動教室の見学先になっている（株）大越忠製作所
と昨年8月まで広報広聴専門委員を務めていただいた河原さんの事業所に決
定した。

（日程） 13：15 市役所出発（市マイクロバスで移動）
13：25～14：10 （株）大越忠製作所見学
14：35～15：35 河原桐箱製作所見学
15：50～16：40 桜井地区センターで見学後の意見交換
17：00 市役所解散

(委員意見) ※見学後に委員から出された主な意見

- 住宅の構造や生活様式が変化し、床の間がない家も多い。掛け軸を掛けるところがなく、その結果、掛け軸用の桐箱の需要が少なくなる。需要が少ないから後継者がいなくなる。
- だるま作り体験などは参加者が多い。興味のある方は多いのではないか。
- 木材や日本文化についての河原さんの話は非常に興味深く勉強になった。年配の方の技術や知識を若い世代に伝えることで、良いものを見分ける「目」を育てることができるのではないか。
- 需要がないのか、あるけど結びつかないのか？ 忠保さんの事業所ではネットを活用している。都心では甲冑を飾るスペースがないという家が多いかもしれないが、地方なら比較的大きな家が多く、ネットを活用することで地方の需要を取り込むことができると話していた。ネットを活用すれば、需要と供給の場所が離れていても結びつけることができる。
- 変化に対応できるものが残っていくという話がある。桐箱についても、若い世代が興味を持つような使い方など工夫ができないか。
- 新しい使い方についてアイデアを募集するのもよいのでは？ 小学生の社会科見学などで伝統工芸の事業所をもっと訪問してもらい、(どんなものに使えるか) アンケートをとってみると、色々出るかもしれない。
- 古いものをただ回顧的に復元するのではなくて、持っているものを新しい世代のニーズにマッチングできるとよい。
- 以前、テレビでアメリカのオバマ大統領御用達のチョコレート店が商品ケースなどに日本の伝統工芸の技術を取り入れているという番組があった。その中で越谷市内の桐箱製作所が紹介されていた。桐の良さをアメリカ人が見つけ、世界とマッチングした例だ。
- 日本の技術で世界に認められているものは多い。外国の方に伝統工芸の事業所を見学してもらい、アイデアをもらうのもよいかもしれない。
- 日本はベンチャーの育成にもっと力を入れるべきだ。せっかく優れたアイデアがあってもベンチャーが育たない。過去の実績を見るのではなく、将来性をみて投資すべき。
- 水辺のまちづくり館に観光協会の事務局が移ったが、越谷の物産が置かれていない。
- 越谷駅前に物産展示場があるが、(伝統工芸品やこしがやブランドの) アンテナショップをもっと増やすことができないか。

(成 果)

越谷の伝統工芸品については、最近ではいきいき越谷の26年5月放送で紹介したが、紙面では平成14年春号の季刊版以来取り上げていない。そこで、紙面でも特集を組み、本市の伝統工芸品の素晴らしさをPRしていくこととする。

なお、今回、委員からいただいた意見については、産業支援課にも情報提供を行う。